

ごあいさつ

西宮市消防局長
岸本 健治



平成7年1月17日午前5時46分、震度7という今まで経験したことのない激震に見舞われたあの時から早や1年余りが過ぎようとしています。

ここに改めて犠牲となられた多くの御霊に対し慎んで哀悼の誠を捧げますとともに、ご遺族の方々と被害に遭われました皆様に心からお見舞い申し上げます。

西宮市の地域防災計画は梅雨前線の豪雨及び台風による水害、高潮、山崩れ等の被害を想定したものであり、広域応援協定、大規模災害に対する事前計画等はいずれも局部地域の災害を想定したものでありました。このたびのような市内全域はもとより数市町にまでも被害が及ぶ広域災害は想定していなかった等の背景があり、私達の消防力を遙に超える災害規模と重なり多くの市民の方々の消火、救助活動に頼る結果となりました。

当日6時20分に指揮本部を設置し、倒壊家屋からの救助要請と同時多発火災の双方に対応するため消火隊と救助隊の部隊統制を行い「1火災現場1ポンプ」を基本戦術として持てる資器材を最大限に活用しましたが、これも底をつき徒歩により資器材無しで現場に派遣せざるを得ない実状でした。

このたびの震災は救助する者自身が被災者であり、家族の死亡、負傷等の最悪の事態を乗り越え長期間消防活動等に従事した消防職員・団員の崇高な消防魂を誇りに思っております。

監視用TVの故障等による情報把握の遅れ。

災害規模に対する消防力の不足。

同時多発の火災、救助、救急への対応。

医療機関との通信途絶。

等ほんの一例ではありますが反省することや問題点が多くあります。これらを今後の地域防災計画の中で、また消防行政の中で十二分に活かして「安全で安心できるまちづくり」を進めていく決意であります。

このたびようやく震災記録をまとめることができました。十分な内容とは申しませんが、震度7の激震に対応した西宮市消防局、消防団の活動実態を皆様に報告することが被災地の私どもの責務であると考えております。

最後のなりましたが、応援出動をいただいた消防機関、自衛隊、警察の皆様そして初期消火、救助活動等に協力いただいた多くの市民の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、全国の皆様から寄せられた激励とお見舞いに対しましても厚くお礼を申し上げます。